

ウィズリブ岳美 地域連携推進会議：議事録

場所：ウィズリブ岳美共有室

時間：2025年12月12日 19:00～

参加者：

ウィズリブ八幡利用者：Sさん

利用者保護者：Iさん

グループホーム職員：鈴木

社会福祉士：Nさん

～以下より敬称略～

=====

●会議資料に沿って進める（別途配布）

A.ウィズリブ岳美について

①施設案内・提供しているサービスについて

②医療体制について

B.利用者の日々の様子について

①利用者S様よりウィズリブでの生活についての聞き取り

②支援員より日々の対応について報告

C.非常時の対応について

D.課題、今後の展望について

①事故報告について（ウィズリブ八幡T様事例）

②今後の地域との関係について

●質疑応答については章ごとに行う。BとCに関しては話し合いの時間を設ける。

=====

A.ウィズリブ岳美について

職員鈴木より日々の業務について

ウィズリブ岳美にて日々の業務で提供しているサービスに関する説明を行った。

鈴木「食事提供とありますが、アレルギーも同様に、事前に把握してメニューを組んでおります。利用者のT様（I様兄）は鯖アレルギーなので、提供時は他の魚で代用しております。」

I：ありがとうございます。それなら安心です。メニューについてはどのようにきめておりますか。

鈴木：メニューに関しては利用者のリクエストが優先され、特になかった場合は過去のサービス提供記録を確認して被りがないように気を付けながら当日考えております。魚、肉などメインは極力連続しないように気を付けております。

S：職員さんは料理経験が豊富な方が多く、毎日の楽しみになってます。

鈴木：金銭管理については、今回参加されているSさん、Iさんの兄のTさんも実施しています。

I：いつもお世話になってます。一度不満があった際は金額の調整をしてくれましたね。その後は落ち着いて安心しています。

N：夜間支援の様子はどうでしょうか。

鈴木：例えばTさんであればてんかんの発作のリスクがあるので夜間時のご様子確認とてんかん時の緊急対応を支援計画に盛り込んでおります。また、気分の変動が激しい方なので夜間の不穏時は頓服対応をしています。

N：医療機関との関係について岳美は利用者で該当する方はいらっしゃいますか？

鈴木：利用者は現在満員で5名入っておりまして、4名が利用されております。日々の健康チェックはもちろん、直近でもインフル、コロナの疑いが出た場合はすぐに当直者から報告があり、すぐに医師にご対応いただいたので感染が広がったケースはここ1年でありません。また毎週来ていただき、ただの健康観察ではなくコミュニケーションをとっていただいているので、気分転換にも大きく影響しているようです。

B.利用者の日々の様子について

利用者、Sさんの話

鈴木：SさんはGHでは料理のお手伝いで大活躍されてますね。

S：ありがとうございます。職員さんと料理をするのが好きで、楽しみにしています。みんなから美味しいと言ってもらえると嬉しいです。

鈴木：SさんはGHでの目標として、ご自身の特技である料理を活かしたいと仰っており、職員の手伝いだけでなくレクでメニューから作るまでの一通りをご自身で挑戦されたりしています。

N：職員との関係はどうですか？困っていることは相談できていますか？

S：職員は話しやすい人が多く過ごしやすいと思います。利用者もよい意味でお互い気にしていない関係なのでコミュニケーションもとやすいです。相談もしやすく、何かあったときは管理者にラインや電話で報告しています。

鈴木：管理者だけ携帯のある利用者とラインで繋がっております。基本的には直接相談しにくいことや、福祉サービスについてなど複雑な課題がある時に活用されています。

C.非常時の対応について

鈴木より自然災害、感染症対策、火災対策について説明

N：災害時の備品についてはどのような基準で選んでいますか？

鈴木：備品については、資料に記載された通り、行政が公表している基準があり、食品や水もその分量に沿って用意しております。

N：今後より対策が求められている災害対策に関して、現在検討しているものはありますか？

鈴木：はい。非常用のバッテリーの導入を検討しています。現在の備品では電力対策が貧弱で、生活水準が大きく落ちる可能性があります。
来年度より試験的に馬淵に導入する予定です。

I：利用者は防災用品の場所については把握されていますか？

鈴木：避難訓練の際に確認をしております。その際に消化器などの火災設備の場所も確認しております。

N：感染症について、日中に職員がいない関係で自室療養の指示が抜けてしまう可能性もありますが、どう対策されていますか？

鈴木：自室療養に関しては今の所利用者さんの理解も得られており、居室から出て過ごすなどの問題にはなっておりません。しかし、今後の利用者で指示が通らない可能性も十分考えられるので、そこについては課題となると思います。
特に岳美は軽度でない知的の方もおり、スマホなどのメッセージでやりとりができないので。

I：地震などで居室が散らかっている場合は崩れるのが怖いですね。

鈴木：そこも課題で、職員の方で定期的に部屋の整頓に関しては介入させてもらっているのですが、やはり拒否がある方もいて、一定の理解が必要になります。
自分が間に入ることが多いです。

D.課題、今後の展望について

鈴木よりヒヤリハット報告と今後の地域との関わり方について説明

鈴木：事例報告としては以上になります。岳美でも騒音トラブルなどが十分考えられるので気をつけて参ります。

I：騒音などで近隣住民からお話しがあったことはありますか？

鈴木：岳美では今のところありません。ただ、あまり周囲には伝えきれていないので、ウィズリブ岳美がグループホームであることすら知らない人も多いかもしれません。

N：表札も小さく、一見すると一般住宅なので周囲には普通の住宅にしか見えないですね。ただ、大々的に周囲に見せるのも利用者の気持ちに反しているので難しいですね。

鈴木：そこが特に難しく、自分がグループホームにいることは伝えてほしくない利用者もいらっしゃいます。なので、町内会の方など、必要最低限の方から認知されつつ、地域に溶け込む形で活動していければと考えております。

I：そうですね。引き続きよろしくお願いします。